



東京都新宿区  
art&experience  
BeR

根岸 由紀子  
さん

今回のアイテム

## コンストラクトノプレミスインダイレクト

# 強度を考慮したハイブリッドインレーの製作法

今日の審美とは、歯冠色を意味していると思われる。白歯部の補綴においても、同様の歯冠色の審美を要求する患者は増えている。しかし臼歯部には大別するとクラウンのケースとインレーのケースとがあり、その双方には製作するうえでのステップに違いがある。

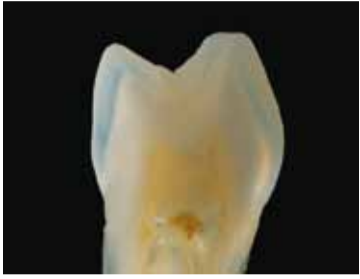
インレーを製作する場合、筆者は多くの症例においてハイブリッドマテリアルによるインレーを第1選択肢としている。それは強度の安定性という観点からである。

過去には耐火歯型上でのセラミックインレーやプレスセラミックスによるインレーも製作したのだが、特に辺縁部においての口腔内での破切を多く経験した。

そこでインレーはプレミスインダイレクトを応用し、さらに、強度を向上させる目的でコンストラクト(ファイバーリボン)をインレーの窩底部に使用している。

このハイブリッド化により完璧な破切対応にはならないが、万が一破切が生じた場合でもインレーの分解を防ぎ、口腔内でのリペアも可能となる。さらにファイバーには光を吸収し拡散する効果があることから、インレーの色調再現にも貢献できる。

今回は筆者のコンストラクトを用いたインレーの製作法を解説させていただく。



1. 抜去天然歯牙にインレーを装着し断面のサンプルを製作した。天然歯のエナメルと調和したインレーが観察できる。



2, 3. シェードテイキング(写真提供:白金しらゆり歯科 矢田拓也先生)



4. 光を吸収し、拡散する効果のあるコンストラクト(ファイバーリボン)。筆者は、強度の向上と色調のコントロールを考慮してハイブリッドインレーの製作には必ず使用している。



5, 6. 隣接を含むインレー製作の場合、隣接の窩洞の大きさに合わせリボンの端を折り曲げる(今回は4回折り曲げた)。



7. 窩底に基本色を薄くビルドアップする。



8. ビルドアップしたプレミスインダイレクトに、沈み込ませるように調節したコンストラクトを圧入する。



9. 隣接面の補強する位置にコンストラクトを設定する。



10. 対合歯および対合歯列との関係をチェックする。



11. プレミスインダイレクトのインサイザル(エナメル)の基本色をビルドアップし、色調をコントロールする。細かなキャラクターは内部ステインとなるカラープラスを使用して、インサイザルにタトゥーを施す。



12. 咬合およびコンタクトのビルドアップを行い、インレーの外形を仕上げる。



13. 光重合し、形態修正後、最終研磨を行う。



14. 模型上の完成したインレー。



15. 口腔内に装着されたコンストラクト補強されたベルグラスインレー。※ミラー像につき反転(写真提供:白金しらゆり歯科 矢田拓也先生)  
プレミスインダイレクトとコンストラクトの親和性は非常に高く、界面の気泡なども生じにくい。他のハイブリッドレジンとのコンビネーションも、スコープなどを使用して内包する気泡に注意し埋入することで、強度の向上に役立つと思われる。